

令和5年度学生短歌コンクール 受賞作【中学生の部】

●入選

収穫を まだかまだかと 待ちわびる 大きく育つ 小さな幸せ

小樽市立銭函中学校 三年 秋田谷優心

猫は虫私は風を求めてる窓の隙間に期待を寄せて

小樽市立松ヶ枝中学校 一年 上田遥

この部屋の様子はなんとも表現できぬこの様子とはそのような状態

小樽市立松ヶ枝中学校 一年 菊地啓吾

広い海その奥深くに広がるのは手の出すことのできない世界

小樽市立菁園中学校 二年三組 澤口莉理和

一から三腕を動かし息を入れるきれいな音色が鳴り響いてく

小樽市立菁園中学校 一年一組 須永終

○佳作

パラパラと無慈悲に落ちる猫の毛はくしゅんくしゅんと鳴らしていく

小樽市立菁園中学校 二年一組 黒澤曹司

きつくひもギュッと結ばれ外に出てずっとアスファルトこすられていく

小樽市立菁園中学校 一年一組 小路春稀

今この時五人で一つのボール追い涙あふれる勝利の瞬間

小樽市立菁園中学校 一年一組 柴田七美

たまごやきにんじんしりしりからあげとお弁当たちいろどりなかま

小樽市立菁園中学校 三年二組 束岡ひかり

味のない 水もおいしく感じるな 暑い夏には もってこいだな

小樽市立銭函中学校 三年 長谷川椋

打鍵感気持ちがよくて最高だ早く正確にタイプピングする

小樽市立菁園中学校 一年二組 松川孟生

やばいかも 人工知能 進んでて 多分明日は 人間いない

小樽市立向陽中学校 三年 松田将長

令和5年度学生短歌コンクール 受賞作【高校生の部】

●入選

下校中サドルに座りひんやりと秋を感じた自転車置場

北海道小樽水産高等学校 一年 伊藤真基

古の 星たちきらり 瞬いて ススキ野原に コオロギ鳴いた

北海道小樽水産高等学校 一年 座間幸之介

波の音 かすかに響く 風の声 私はここで 浮かんでいたい

北海道小樽水産高等学校 一年 高原愛里華

UFOにダイヤの針を落としたらディスコティックにシンセが響く

北海道小樽水産高等学校 二年 宮腰葵

これからは、進路の道へ、その道は、先の見えない、冬道のよう

北海道小樽水産高等学校 二年 森山翔月

○佳作

カレンダー 消し忘れてた 一周年 見ると感じる 君の体温

北海道小樽水産高等学校 二年 大西蒼音

お辞儀する ひまわり横目に お洒落する 山一面が 暖色にそまる

北海道小樽水産高等学校 一年 川島麻椰

秋の空とても綺麗だふと思う僕の心はずっと綺麗だ

北海道小樽水産高等学校 一年 笹山竜聖

紅き葉は いつか散りゆく 儂い葉 でもこの恋は きつと散らない

北海道小樽水産高等学校 一年 中村優哉

令和5年度学生短歌コンクール 受賞作【大学生の部】

●入選

ガス灯の揺れる光が暖かくいてつく冬の寒さまぎらす

国立小樽海上技術短期大学校 二年 河合謙太郎

故郷と向かい合うのは小樽港第二の故郷と染まりゆくかな

国立小樽海上技術短期大学校 一年 涌島慧

小樽港朝日が射すと釣り人の竿の動きは荒々しいな

国立小樽海上技術短期大学校 一年 山岡鷹仁

北海道小樽市緑3丁目海を学ぶ場山の上にある

国立小樽海上技術短期大学校 詠み人知らず

○佳作

食べることが明日をつくると知りながら服買う友を止めぬ寂しき

国立小樽海上技術短期大学校 一年 井口拓

俺裕也週六バイトコロンビア八月閉店今無職

国立小樽海上技術短期大学校 二年 中里麟

山緑を硝子の香りに誘われて潮風運ぶはうしおの囃子

国立小樽海上技術短期大学校 一年 林竜門

鳴りひびく帰り路のまちにわかれの音彼方の地へと行く人々の

国立小樽海上技術短期大学校 一年 松本匠生